

主 題：恵みシリーズ17、心の目を開きなさい

聖書箇所：ヨハネの福音書 9章35－41節

エルサレムの神殿の近くで、主イエス・キリストは生まれつきの盲人を癒されました。目が見えるようになった彼を見た知り合いたちは、驚きに包まれました。いったい何が起こったのか？と。そのことを知りたかった彼らに対して、盲人であった人は「イエスという方の奇蹟によって自分の目が見えるようになった」ことを告げました。彼を癒したのがイエスであることに気付いたユダヤ人たちは様々な反応を示します。パリサイ人たちの間では分裂が起きました。ある人たちは「その人は神から出たのではない。安息日を守らないから。」と言って批判し、ある人たちは「罪人である者にどうしてこのようなしるしを行なうことができよう...」と自分たちを擁護したり、その様子が9：16に記されています。「すると、パリサイ人の中のある人々が、「その人は神から出たのではない。安息日を守らないからだ」と言った。しかし、ほかの者は言った。「罪人である者に、どうしてこのようなしるしを行うことができよう。」そして、彼らの間に、分裂が起こった。」。

また、イエスをキリストと告白する者を会堂から追放することを決めていたユダヤ人たちは、イエスの奇蹟を信じようとはしませんでした。却って、彼らはこの男の目が本当に不自由だったのか？本当に彼は見えなかったのか？と盲目の真実性を疑うのです。そんな中、目が癒された人物は、自分の身に起こったことを勇敢に大胆に証し続けていきます。そのことが今日見る箇所の簡単なあらましです。彼はその後どうなっていくのか？34節を見ると、彼が会堂から追い出されていく様子が記されています。9：34「彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちに教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。」。この9章は私たちに、確かに、肉体的な目が不自由であったこの人の癒しを通して、イエスはもっと大切なことを教えようとされていることを示しています。私たちひとり一人にとって最も大切なこと、「救い」についてイエスは教えようとされるのです。この箇所のことばを使うならそれは「心の目が開かれること」です。なぜなら、私たちはみな生まれながらに心の目が閉ざされているからです。そして、心の目が開かれなければ永遠の祝福を逃してしまうのです。もし、心の目が閉ざされたままでは、祝福どころか永遠ののろい、さばきがその身に起こるとイエスは言われるのです。ですから、「心の目を開く」ことの大切さをイエスは教えておられます。それを見ていきます。

☆「心の目を開くこと」の大切さ

少なくとも、目が癒されたこの男性との会話を通して、また、そこにいた群衆との会話を通して、イエスは三つの大切なことを教えておられます。

1. 顧みられる救い主 35a節

35節の初めを見てください。この男のことを心に留められた主、彼のことを気づかい心配された主、その姿を見ることができます。「イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。」と。この男が会堂から追放されたことを聞いて、イエスは彼を捜し出されたと言うのです。私たちから見ると、会堂から追放されるなど大したことではないと思いますが、ユダヤ人たちには大変なことでした。どんな点で大変だったのか？二つのことが言えます。

◎会堂から追放されるとは？

イスラエルの宗教的、社会的な生活から事実上断ち切られるということです。社会的な関係や商売などの関係、また、宗教的な関係からも断ち切られてしまいます。イスラエル民族としての特権を失ってしまうということです。だから、人々はパリサイ人たちの目を意識しながら行動していたようです。ヨハネ12：42に「しかし、それにもかかわらず、指導者たちの中にもイエスを信じる者がたくさんいた。ただ、パリサイ人たちははばかりで、告白はしなかった。会堂から追放されないためであった。」と書かれています。

このようにユダヤ人たちは会堂から追放されることを非常に恐れていたことが分かります。イスラエルのコミュニティから締め出されてしまうからです。

(2) 迫害が伴う

ルカの福音書 6：22 をご覧ください。「**人の子のため、人々があなたがたを憎むとき、あなたがたを除名し、辱め、あなたがたの名をあしざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。**」と、イエスご自身も、信仰によってあなたがたが経験することはこのようなことだと言われているのです。信仰ゆえに、憎まれ、除名され、辱められ、あしざまにけなされると…。信仰をもつことによって、イエス・キリストを告白することによって大変な迫害が伴うと、主イエスはそう言われたのです。

また、ヨハネ 16：2 には「**人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者がみ**

な、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。」とありますが、その当時の様子を垣間見ることができます。「**あなたがたを会堂から追放する**」と「**あなたがたを殺す**」が並列に記されています。このようなことが会堂から追放された者たちに起こったのでしょう。ですから、会堂から追放されるということは、そのコミュニティから断絶されるだけでなく、自分たちのいのちをも危険にさらしてしまうということが伴っていたようです。

道理で、この盲目を癒された男性の両親が恐れを抱いたはずです。9：22 に「**彼の両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れたからであった。すでにユダヤ人たちは、イエスをキリストであると告白する者があれば、その者を会堂から追放すると決めていたからである。**」とあります。だから、そのことを恐れた者たちはそのようなことにならないようにと策を講じるのです。

*彼が盲目であったときは「物乞い」をしていた

癒された男性は会堂から追放されていきます。みことばは記していませんが、この男性にはいろいろな不安があったかもしれません。なぜなら、9：8 を見ると物乞いをしていたと書かれているからです。「**近所の人たちや、前に彼が物乞いをしていたのを見ていた人たちが言った。「これはすわって物乞いをしていた人ではないか。」**と。貧しい家庭に育ったということを知ることができます。そして、その上、自分を守ってくれた社会から追放されてしまう、自分の民族からのけ者にされてしまう、そうすると、自分の将来に不安がよぎるはずです。今までも苦しかったけれど、これからどうなっていくのだろう？と。今まで自分を支えてくれたコミュニティから追放されてしまう…。恐らく、そのようなことを考えていたことでしょう。

*主は彼を見捨てることをしなかった

そのときに、主イエスご自身が彼を捜しに出られるのです。そして、イエスご自身が彼を見つけられます。もちろん、彼はまだイエスを見たことがありません。目が見えなかったのですから…。イエスは彼がどういう人かを知っておられました。そして、イエスは出かけて行って彼を見つけ出されたのです。何を言っているのでしょうか？主は決して彼を見捨てることがなかったのです。「**主を愛する者を主は見捨てることはない**」と主が約束なさったように…。ヨハネ 6：37 に「**父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに來ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。**」とある通りです。

ここには否定語が二つ並んでいます。「**決して**」と「**捨てません**」です。否定の強調です。「**わたしのところに来る者**」、すなわち、わたしを信じる者、わたしの本当の弟子をわたしは絶対に捨てることはない、決してその人を見捨てることをしませんと言うのです。絶対にあり得ない、わたしは何としてもその人を守り続けると、まさに、そのように主が言われるのです。

クリスチャンの皆さん、私たちがこの救いに与ったということは本当に感謝なことですよ。なぜなら、私たちの主は私たちのことを心配してくださる方だからです。ペテロもそう言っています。1ペテロ 5：7 「**あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるか**

らです。」と。クリスチャンであるあなたには選択があるのです。あなたの生活に起こる様々なことをあなた自身が心配することはできますが、もっと賢い選択ができます。すべてのことを神の前にもっていくことができます。「そうしなさい」と神は言っておられます。私たちはキリストの恵みによって救われた者として新しい願いをもっています。それは神に喜ばれることをしていきたい、この偉大な神のすばらしさを人々に伝えていきたいという願いです。その願いをもって皆さんは生きておられるはずです。様々な思い煩いを自分の心に抱えて自分で解決しようとすることは、神を喜ばせることではないし、神の栄光を現わすことにもなりません。

私たちは気付かなければいけません。自分で解決できているところに問題があるのです。その傲慢さが問題なのです。私たちは学ばなければなりません。どんなことにおいても神の助けが必要だと。神の助けをいただいて事をするときに、私たちは「神さま、ありがとうございます。」と言うからです。「こうしてこのことがこのようにできたのは、神さま、あなたのおかげです。」と言って神に感謝をするからです。そうして私たちはこの偉大な神の栄光を現わそうとするのです。自分でしようとするとき、その結果は、私たちの心は心配事で溢れて来ます。できないことを一生懸命自分の力でやろうとしてもがき苦しんで、その選択が誤っているゆえにあなたから喜びがなくなっていき、感謝がなくなっていきます。覚えなければいけません。あなたの神はあなたのことを心配してくださる方です。そして、「あなたの思い煩いをみなわたしのところに持って来なさい、わたしが解決して上げるから。」と。

もっと言うなら、そのようなすべての思い煩い、それらを通して私たちがよりキリストに似た者に変えられていく、そのための機会なのです。「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」（ローマ 8：28）のです。あなたがよりキリストに似た者に変えられていくために、神はありとあらゆることをあなたの生活の中にもたらししてくれるのです。目的ははっきりしています。私たちがイエスに似た者に変えられていくために、神はすべてのことをあなたのうちに為しておられるのです。ですから、私たち信仰者にとっての賢い選択は、神の栄光を現わしたいと願っているあなたにとっての正しい選択は、できないことを自分の力でやろうとすることではなく、それが可能な神のところに行って「助けてください、神さま」と神に求めることです。

感謝なことに、私たちの神は私たちのことを心配してくださっているのです。このときもそうでした。会堂から追放された男を捜し出されたのはイエスでした。実際に行動をもって「わたしはあなたのことを心配している。あなたのことを気にかけている。」と主ご自身が明らかにされました。これが私たちの神です。私たちが愛している神です。

***主は、あなたを見捨てることは決してない！**

詩篇 37：28にも「まことに、【主】は公義を愛し、ご自身の聖徒を見捨てられない。彼らは永遠に保たれるが、悪者どもの子孫は断ち切られる。」とあり、94：14では「まことに、【主】は、ご自分の民を見放さず、ご自分のものである民を、お見捨てになりません。」と書かれています。神は絶対にあなたを見捨てることはないのです。あなたが背を向けたとしてもあなたを見捨てることはない。だから、主を見上げることです。信頼を置くことです。主の言われたことを信じて行なうことです。

2. 導かれる救い主 35b-38節

二つ目は私たちを「導かれる救い主」だということです。どのように、どこへ導かれるのか？救いへと導こうとされるのです。主ご自身がこの男性を救いへと導こうとされるのです。

1. 救いへの招き

35b節「あなたは人の子を信じますか。」、唐突にこのようなことを質問されます。恐らく、彼はびっくりしたことでしょう。「人の子」について少し説明します。

***「人の子」**

イエスはご自身のことを語られるときこの「人の子」という称号を最も多く用いておられます。新約聖書に、特に、福音書には83回も使われています。

1. **メシヤの称号** : 救世主
2. **キリストの人間性と謙虚さを表わす** : 神が人となって来られたこと
3. **後に、ご自身の王国を築かれる** : 主イエスは王国を築くために、栄光を帯びてこの地上に戻

って来られる永遠のお方であることを語っている

みことばを見ましょう

マタイ24：27 「人の子の来るのは、いなづまが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。」

マタイ24：30 「そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。」

マタイ24：37 「人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日的一样だからです。」

マタイ24：39 「そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。」

マタイ24：44 「だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから。」

マタイ25：31 「人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。」

マタイ26：2 「あなたがたの知っているとおり、二日たつと過越の祭りになります。人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」

マタイ26：24 「確かに、人の子は、自分について書いてあるとおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はわざわざいます。そういう人は生まれなかったほうがよかったのです。」

マタイ26：45 「それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。」

マタイ26：64 「イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりに。なお、あなたがたに言っておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見ることになります。」

マルコ8：31 「それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日の後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。」

ルカ19：10 「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

イエスはここで男に「人の子を信じますか？」と言われましたが、ユダヤ人たちが「人の子」という称号を聞いたときに、よく聖書を学んでいる彼らであるなら、ある旧約聖書のみことばを思い出すはずだったのです。そのみことばはダニエル書7章に書かれています。主イエス・キリストは彼らが当然、そのみことばを思い起こすことを確信しながらそのようにご自分のことを言われたのです。7：13
「私

がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。」「私」はダニエル、「人の子」とはイエス・キリスト、そして、「年を経た方」とは主権者なる神のことを指しています。ですから、人の子のような方が雲に乗って神の前に進み、その前に導かれたと教えるのです。そして、この「人の子」に7：14「この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸言語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」と言います。この「人の子」は地上に永遠の王国を築かれる、そのようなお方だと預言されているのです。

ですから、イエスが「人の子」と言われたときに、ユダヤ人たちはダニエル書のそのメッセージを思い起こすはずでした。イエスはそこに書かれている「人の子」がご自身だと明らかにしようとされたからです。イエスは「人の子を信じますか？」と、ダニエル書にあるように、地上に王国を築く王を、人となってこの世に来られた神を「信じますか？」と言われました。マルコ14章を見てください。イエス・キリストが大祭司の庭で祭司長や全議会からさばきを受けているときの様子です。この出来事後、ペテロがイエスを三度「知らない」と否定するのです。14：61、62に大祭司とイエスとのやりとりが記されています。いろいろな偽りの証言が為されました。でも、このみことばが私たちに教えているように、様々な偽証があったが一致しなかったのです。そのような中で、大祭司が真ん中に進み出てイエスに質問するのです。「:61 しかし、イエスは黙ったままで、何もお答えにならなかった。大祭司は、さらにイエスに尋ねて言った。「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」:62 そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずで、す。」、イエスご自身ははっきり「わたしがキリストだ」と言われ、そして、ダニエル書の7章を引用してそのように言われました。イエスはこのように、ご自分がダニエルが預言していた「人の子」であること、救世主であること、この世に王国を築くものだと言われたのです。

こうして、イエスはご自分が約束のキリストであることを明らかにされ、癒された男性に対して「あなたは人の子を信じますか？」と問われたのです。

2) 彼の応答 36-38節

36節には彼の応答が書かれています。「その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。」と。

*彼の応答は彼の心を見事に反映している

彼がどのような思いをもっていたのか？そのことを彼の応答が明らかにしています。

1. 真理を知りたいと求めた 36a節

彼は「人の子を信じるか？」と問われたときに「主よ。その方はどなたでしょうか。」と言っています。彼は「私は真理を知りたい」と告白するのです。「言われている「人の子」を私は知りたい」と…。この時には彼はまだ、自分の前に立って話している人がだれであるかを知りません。なぜそのように言えるのか？実は、彼が言った「主よ」ということばがそのことを示すからです。36節にある「主」は、神に対して使う「主」ではありません。これは「あなた、あなたさま、先生」と尊敬を込めて使うことばです。ですから、彼は「先生、その方はどなたでしょうか？」と言ったのです。

実は、ここで見る「主」ということばは、私たちが見て来たヨハネの福音書の中に何度も見ることができます。サマリヤの女とイエスとの会話を思い出してください。ヨハネ4：11「彼女は言った。「先生。あなたはくむ物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。」、同じ4：19「女は言った。「先生。あなたは預言者だと思います。」、この「先生」が同じことばです。また、ヨハネ5章では、38年もの間、病気にかかっていた人が癒されたことが書かれています。そのときも5：7「病人は答えた。「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。」と、ここで「主よ」と言ったのも同じことばです。自分に語りかけている人に対して敬意をもって答える、そのような表現です。

ですから、この男性は自分に語りかけている人物がだれであるかを知らないのです。

2. 真理を信じたいと願った 36b節

「真理を知りたい」と願っただけでなく、彼は「真理を信じたい」と願いました。36節の後半に「私がその方を信じることができますように。」と書かれているからです。この36節ですが、原語では「主よ。その方はどなたでしょうか。」ということばの後に接続詞が付いています。それは「～するために」という意味のことばです。ということは、彼が「その方はどなたでしょうか。」と言ったその目的です。その目的は「その方を信じる」ということです。ですから、イエスとの会話を通して彼が言ったことは「その方はどなたでしょうか？私はその方を信じたいのです。だから、教えてほしい。」ということ

でした。ただ何となく会話をしていたのではありません。イエスの導きによって、彼は「その「人の子」を信じたい、だから、その人がだれなのかを教えてください。」とイエスに問い掛けるのです。

***そこで、主イエスはご自身に関する真理を明らかにされた 37節**

イエスはそれに答えておられます。37節「**イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」**と。イエスはここでご自分がその「人の子」だ、人となった神だ、ご自分があのダニエルが預言していた存在だと、そのことを明らかにされたのです。

(3) 真理を信じた 38節

彼は言います。38節「**彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。**」、ここにも「主よ」ということばがありますが、これは先ほど見た36節の「主よ」とは違うことばです。38節の「主よ」は神に対する「主」です。神を表わす「主」として敬意をもって言っているのです。ちょうど、トマスが「**私の主。私の神。**」(ヨハネ20:28)と告白したのと同じことばです。

ですから、この男性はイエスの前に、「人の子はこのわたしだ。」と言われたときに、「主よ、私はあなたを信じます。」と答えるのです。彼はここで初めてこのイエス・キリストを自分の神として受け入れるのです。ですから、「**彼はイエスを拝した。**」と書かれています。イエスを崇拝するのです。こうして、イエスはこの人物を捜して彼を見つけて、そして、救いへと導かれ、この人はここで本当に生まれ変わるのです。完璧な教師であるイエスは無駄なことばが何一つなかったのです。このように一人の人を救いへと導かれました。すばらしい主の恵みを私たちはここに見て取ることができます。

3. さばかれる救い主 39-41節

この後、39-41節で、イエスは彼とともにいた群衆に対して話しておられます。「**39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。」**、

***「わたしはさばきのためにこの世に来ました。」とは？**

ヨハネ12:47でイエスは「**だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。**」と言われている。イエスは世を救うため、罪人を救うために来られました。それにも拘わらず、ここでは「**わたしはさばきのためにこの世に来ました。**」と言われている。なぜ、こんなことを言われたのでしょうか？

***救いが明らかにされるとき、同時に、さばきも明らかにされるから**

主イエス・キリストの来臨、人としてこの世にお生まれになったこと、イエスの生涯も、そして、イエスの十字架も復活も私たちに大切なことを教えてくださいました。私たちは神によってさばかれる者、私たちは創造主なる神のみこころに全く相反することを選択して生きている。イエスが罪から救われなさいと言われるとき、それを聞いている人たちがみな、自分は救われる必要のある罪人だということを明らかにされます。主イエス・キリストは何のためにこの世に来られたのか？罪人を救うためだと、では、罪人とはだれなのか？私たちひとり一人です。救い主が来られたということは、私たち人間には救いが必要だということを明らかにしたのです。イエスが「**罪を悔い改めなさい**」と言われたときに、私たちは罪を悔い改めなければならない罪人だということが明らかにされています。「この福音を信じなさい」とイエスが言われるときに、私たちが福音を必要としている罪人だということを明らかにしているのです。

皆さん、主イエス・キリストは罪人であるあなたを救うためにこの世に来てくださり、そして、イエス・キリストはあの十字架と復活をもって完璧な救いを備えてくださった。どんな罪人でもその罪を赦していただけるその完璧な救いを、イエスはご自分のいのちをもって設けてくださった。しかし、その福音のメッセージが語られるところでは、このようなメッセージが同時に語られているのです。「このイエス・キリストを信じることによってあなたは救われる。しかし、もし、この福音のメッセージを拒むなら、あなたにはさばきが来る。」と。ですから、イエスが福音のメッセージを語られるとき、「確

かに、救いはあります。神は救いを与えてくださる。でも、その救いのメッセージを拒むなら、そこには救いはない。そこにはさばきしかない。」と言われるのです。

ですから、「わたしはさばきのためにこの世に来ました。」と、救いを語られたイエスは同時に「私たち人間はみな、さばきに服する運命だ」ということを明らかにされたのです。だから、救いが必要なのです。そして、イエスは救いを提供してくださった。でも、その救いを拒み続けるなら、その人に待っているのは自らの罪のさばきです。

39節の後半に「目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」とありますが、これは「救い」のことです。イエスが敢えてこのような表現を使ったのは、今、彼らは肉体的に目が見えなかった人が癒されたこと、見えなかった人が見えるようになったその奇蹟を見た人たちに、そのことから霊的な真理を語ろうとされるからです。

・「目の見えない者」： 救いの必要性を知っている人

盲人は自分が目が見えないことを知っています。「目の見えない人」は自分は神に対して、罪に対して真理が見えていなかったということを知っている人です。肉体的に目の不自由な人が「自分は目が見えない」ことを知っているように、「目が見えない」という人は、自分がいかに神に逆らってきたのか、

真理が見えていなかったのか、そのことを知っている人です。

では、その人はどうなのか？当然、目が見えるようになりたいと思って、助けを、救いを求めます。ですから、「目の見えない者」、すなわち、自分の心がどれ程汚れているかを知って救いが必要だと思っている者は、救いをいただくために、つまり、見えるために、わたしのところにやって来る、そして、その人は見えるようになると言われたのです。

・「見える者」： 救いの必要性はないと思っている人

このような人がここに大勢いたのです。イエスが為さった奇蹟を彼らは否定しました。彼らは思っていました。「我々はイスラエル人だ。アブラハムが私たちの父だ。私たちに救いは必要ではありません。救いが必要なのは異邦人であり、我々以外の者だ。」と。ですから、イエスは「見える者」、自分には救いは必要ではないと思っている人たちは救いを得ることはない、その目が開かれることは決してないと言われます。

悲しいことに、多くの人たちはこのすばらしい神の救いのメッセージを聞いても、「愚かな話」としてしか受け入れません。パウロが1コリント1：18で「十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」と言った通りです。悲しい現実、イエスが成し遂げてくださった、そして、設けてくださった完璧な救いのことを聞いても、人々にとってそれは愚かなものとししか見えないことです。十字架の上で血を流して、罪のない方が私の罪を負って罪ある者として身代わりとなって死んでくださった、あの十字架を見てもだれも感謝しません。「私には救いは必要ではありません」と信じ込んでいるからです。

＊心の目は見えているか？ 40－41節

パリサイ人は言います。40－41節「:40『パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。『私たちも盲目なのですか。』:41 イエスは彼らに言われた。『もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。』、彼らは『私たちも盲目なのですか。』と言いました。イエスは『もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。』と39節と同じことを言われました。

・心が盲目であることが分かっているなら： 見えることを求めて救いを得るだろう

自分は本当に罪に汚れた者であり、自分には救いが必要であると思っている人なら、あなたは罪がない、罪が赦されるでしょうと。先ほどから見てるように、自分は目が不自由だと思っているなら、癒

されたいと願います。心が汚れていると分かっていると、その汚れから逃れたい、救われたいと願います。ところが、

・目が見えると言っている人は　：　救いを必要としない

その人たちの罪は残ります。折角、備えられた救いを彼らが必要としないものとして拒むから、彼らに残っているのは自分の罪のさばきであると言うのです。パリサイ人たちは、自分たちは救いを必要としている罪人であることが見えていないのです。ゆえに、あなたがたは「滅びる」とイエスは言われました。この救世主、神の子を拒んだからです。箴言 20：8に「**さばきの座に着く王は、自分の目ですべての悪をふるい分ける。**」とあります。また、ヨハネ 3：18には「**御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。**」と書かれています。

イエスは肉体の目を癒すことによって、この群衆に「あなたがたは霊的に暗闇な中を生きている。あなたがたは真理が分かっている。確かに、肉体の目は開かれているが、心の目は開かれていないから、あなたは救いが必要だということが分かっている。なぜなら、もし、あなたの心の目が開かれているなら、わたしはあなたに一番必要なものを提供するから。」と言われたのです。盲人にとって、目が見えるようになりたいと思っている人にとって、その癒しが与えられるということはすばらしい喜びのニュースです。自分がいかに汚れているかを知っている人たちは、自分の心が罪に汚れていて救いが必要だと思っている人たちは、主イエス・キリストがその救いを与えてくれるというニュースを聞いたときに、その方のところに飛んで来て、「主よ、私を赦してください」と救いを求めるはずですが、でも、見ているように、彼らは救い主が来られているのに、救いがそこに提供されているのに、それを受け入れようとはしなかったのです。「あなたがたの心の目は見えていない」と言われます。

私たちが考えなければいけないことは、「私の心の目は見えているかどうか？」です。あなたは本当に救いが必要だと思っているかどうかです。そして、そのことを本当に主によって悟らされた皆さんは、救いを与えてくださる主の前に出て来られました。そして、今、救われたことを喜んでおられます。

もし、この中にまだこの救いをいただいていない人がおられるなら、今、その救いを与えてくださる主の前に出て来ることです。救いが必要なのはあなた自身です。

最後に、この癒された男性は、ユダヤ教のリーダーたちに対して大変勇敢でした。彼は大胆に主のみわざを宣べ伝えました。9：24「**そこで彼らは、盲目であった人をもう一度呼び出して言った。「神に栄光を帰しなさい。私たちはあの人を罪人であることを知っているのだ。」**」と言われたことに対して、彼はこのように答えています。9：25「**彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、私は知りません。ただ一つのことだけ知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」**」と。すばらしい証が為されたのです。信仰の証とは自分のことを伝えることではありません。私たちの救い主を伝えることです。私たちクリスチャンにできる証は、神が私のうちに為してくださったみわざを伝えることです。彼はそれをしたのです。かつての私は目が見えなかった、しかし、今私は見えると言いました。

私たちが語るメッセージは、かつての私は罪の中を生き、神に逆らっていました。そんな私を神は生まれ変わらせてくださった。今、私は見えるのです。何が本当に価値あるものか、何が永遠に価値あるものか、神がどんな方なのか、神を私を生まれ変わらせてくださった、私の罪を赦して私を新しくしてくださった、信仰者の皆さん、これが私たちのメッセージです。これが私たちの証です。

その証のメッセージをしておられますか？この人物はイエスと出会ってまだ何日も経っていません。しかし、彼はだれかから聞いたことを伝えたわけではありません。難しい神学の話をしたのでもありません。彼は主が自分にしてくださった事実を人々に伝えたのです。私たちもこの救いをいただいているなら、当然、私たちにも語るべきメッセージがあります。神が私を救ってくださった、私を生まれ変わらせてくださった、私に希望をくださった、私の罪を赦してくださった、私は今日死んでも天国に行ける、その約束をくださったと。主が私たちにしてくださったことを伝えること、それが私たちの証なの

です。そして、当然、その証をすることを神は望んでおられるし、その証を忠実に行なう者たちを主は愛して下さいます。

皆さん思いませんか？なぜ、この人物のことが聖書の中に記されているのか？その当時の人たちは彼のことをよく知っていました。彼は物乞いをしていたからです。当時の人たちの間では、人間的には最も価値がなかったかもしれません。しかし、主はその人物を大いに祝して、大いに用いられました。人間がどう見るかなどはどうでもいいのです。私たちに必要なことは、私たちを救ってくださった神に用いていただくことです。この神のすばらしさを伝えることです。そのために、主は私たちを救ってくださったのです。この人物はこの偉大な神の証をしたのです。そして、その証が聖書の中に記されています。人は彼を見下しました。でも、神は彼を喜ばれた。主はあなたのことを喜んでおられるでしょうか？主はあなたのことを誇っておられるでしょうか？「これはわたしの愛するしもべだ。彼はこうしていのちがけでわたしのことを伝えている。」と。信仰者の皆さん、今の質問に答えなければいけません。

どうぞ、神があなたを助けてくださって、今一度勇気を与えてくださって、主イエス・キリストだけが救い主だ、ここにその証人がいる、主は私を生まれ変わらせてくださったと、その証人としてぜひ今週も歩んでください。そのメッセージを世の中は必要としています。そして、そのメッセージを伝えるために神はあなたを救ってくださったのです。どうぞ、主があなたを豊かに用いてくださるよう、このすばらしい救い主があなたを通して人々の前で明らかに示されるように、そのことを願います。

《考えましょう》

1. この男は、主が自分に対して為されたことを人々に証しました。
なぜ、このことが大切なのでしょう？
2. 主が彼を捜され、見つけられました。このことはあなたにどのような確信を与えますか？
3. どうして人は、心の目を開かないのでしょうか？ その理由をお考えください。
4. 「人の子」について説明をしてください。